



2016 February

No.522

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

第7回 人吉医療センター緩和ケア研修会



1月16・17日（土・日） 当院3階講堂にて、第7回緩和ケア研修会を開催しました。

この研修会は、がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画における「すべてのがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」（厚生労働省通知）に則り、がん診療に携わるスタッフが研修などによって緩和ケアについての基本的な知識を習得し、がん治療の初期段階から緩和ケアまでが提供されることを目的として開催されます。当院は地域がん診療連携拠点病院として、毎年この研修会を開催しています。また、平成28年度からの「がん治療認定医」申請における必須資格や、「がん性疼痛緩和指導管理料」に関する施設基準に該当する研修会にもなりました。

今回は、国立がんセンター及び日本緩和医療学会主催の指導者研修会修了者である先生方をファシリテーターとしてお招きしました。受講生は、遠くは秋田県、下関市、熊本市からの受講参加があり、人吉市の医師・看護師、当院からも木村病院長や下川副院長をはじめとする医師、歯科衛生士、と総勢31名の方が受講されました。

研修は2日間にわたり、「緩和ケアとは」という概論から、「つらさ」の包括的評価と症状緩和・呼吸困難・消化器症状・精神症状に関する講義、がん疼痛事例検討が行われました。「悪い知らせを伝えるとき」のロールプレイ、さらには地域連携と治療・療養の場の選択についてのグループワークも行われ、活発な意見が交わされました。

受講者からの感想として「具体的な言い回しが大変勉強になりました」「がん患者の家族として、勉強になりました」「患者さんの気持ちになることや、医師役になって伝える事の難しさを体験することができて良かった」など肯定的な感想をいただきました。

来年度の研修会は平成29年1月ごろに開催を検討しております。多くの受講者をお待ちしておりますので、是非ご参加ください。最後になりましたが、今回の研修会開催に当たり、多くの関係者の皆様にご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

5階西病棟 看護師 海氣 直子

感染拡大予防にご協力ください！

★ ご面会の方へ

インフルエンザ流行期には、面会をご遠慮いただく場合があります。

● 咳エチケット

咳やくしゃみなどの症状がある時には、マスクを着用しましょう。



マスク着用の案内板（病棟）

★ 手洗い、マスク着用のお願い

患者さんは感染しやすい状態にありますので、病棟への入口扉は施錠管理としております。看護師が面会の方に健康状態をお聞きしています。院内における感染拡大予防のため、手を消毒し、マウス着用で面会していただきますようご理解とご協力をお願いします。また、看護師にご用の際は、病棟入口に設置している電話をご利用下さい。



病棟入口（施錠管理中）



病棟入口に電話を設置

感染管理室 感染管理認定看護師 別府 るみ

「臓器提供意思表示カード」ご存知ですか？

昨年12月、当院にて心停止後のドナーの方より角膜提供があり、今年1月に無事2名の方へ角膜移植が成功しました。

当院は心臓が停止した死後の臓器提供（角膜・腎臓・脾臓）が可能な施設です。患者、患者家族より臓器提供や検体の希望がある場合には、可能な限りその意思を尊重し、適切な対応を心がける事を基本方針としています。また、熊本県より任命を受けた院内ドナーコーディネーターが2名在籍しており、ドナーとなる可能性のある患者の状況を把握し、そのご家族および熊本県臓器移植コーディネーターとの調整役を担っています。

近年の世論調査では、4割以上の方が「提供してもよい」と臓器提供を希望する人は増えています。しかし、日本の臓器提供は欧米諸国と比較すると圧倒的に少ない現状は変わっていません。それは、日本にその意思を活

かす仕組みが整っていない実情があるからです。善意をつなげる仕組みを整え、なおかつもっと移植医療の正しい知識が広がる事で、善意で救える命が増えると言われております。よって、当院の院内コーディネーターとして、院内整備を整え、普及・啓蒙活動を行っていきたく考えておりますので、ご協力お願いいたします。

まず、私達が出来る事は、臓器提供の意思表示を行う事です。そして、大切な家族の意思も確認しておきましょう。



院内コーディネーター
集中治療室看護師 坂本 恵子

～宿泊施設のご案内～

当院では、患者さんが急に入院されるなど、ご家族がお困りの時などにご利用いただくお部屋を用意しております。利用ご希望の場合は、病棟スタッフまでお申し出下さい。

利用時間：チェックイン、チェックアウトはともにAM10時となっております。

利用料金：通常利用料金 1泊 2,500円
5日泊目以降 1泊 1,500円

アメニティ：バスタオル、フェイスタオル、ボディーソープ、シャンプー、リンス、スリッパ、羽毛布団、ドライヤー、冷蔵庫、電話（院内、市内通話のみ）



総務企画課

ブランケット貸出します

まだまだ午前中は冷え込む日が続いております。当院では、玄関の制限・床暖房を入れる等の寒さ対策をとっておりますが、受付や外来で寒く感じられる方には、1階受付にてブランケットの貸出をしております。

必要とされる場合はお近くのスタッフへお声かけください。



当院で大腸内視鏡検査を受けられる方へ

～検査食（外来の方のみ）のご案内～

大腸内視鏡検査は、大腸に残った便を洗い流すために、検査当日に経口腸管洗浄剤を約2リットル飲んでいただきます。

当院では、経口腸管洗浄剤を飲むことが苦痛と思われる方や、少しでも飲む量を減らしたいと思われる方に検査食（残渣が少ない食事）を準備しています。ご希望の方は、当院内のコンビニ green leaves にて販売しておりますので、ご利用ください。

3食+間食セット（朝食・昼食・夕食+間食） 2種類あります

- ① 朝：和風がゆ、すまし汁
 昼：かゆご飯、味噌汁、お豆腐ハンバーグ
 夕：コーンスープ
 間食：エネ飲（ピーチorマスカット味）、ビスコ



（総熱量 1139kcal）
 1,542円（税込）

- ② 朝：白がゆ、梅かつおふりかけ、味噌汁
 昼：紅鮭がゆ、すいもの
 夕：ポタージュスープ
 間食：粉末（オレンジ飲料、紅茶）クッキー、あめ湯



（総熱量 819Kcal）
 1,490円（税込）

2食セット（昼食、夕食） 2種類あります

- ① 昼：じゃがいものそぼろあんかけ、たまごがゆ
 夕：ビーフシチュー、クラッカー



（総熱量 548Kcal）
 1,028円（税込）

- ② 昼：野菜のクリーム煮、クラッカー
 夕：大根のそぼろ煮、鶏雑炊



（総熱量 538Kcal）
 1,131円（税込）

※注）効果に個人差はあります

内視鏡センター 看護副師長 松本 美保

部署紹介

予防医療センター

当センターでは、早期発見をさらに進めた超早期発見を目指し、乳がんはマンモグラフィと超音波を併用、64列CTによる肺がん検査、大腸内視鏡による大腸がん検査等で、微小がんの発見に力をいれております。健診後の保健指導においても、個人毎の健診データ、生活状況に基づいたオーダーメイドの保健指導を実施し、疾病予防に取り組んでおります。また、平成25年にはPET-CT検査もはじまり、全身がんの発見に尽力しております。

平成27年12月には乳がん検診の最新機器であり、要精検率の低減を可能にすることが期待される新技術を搭載した3Dマンモグラフィ装置（デジタルプレストトモシ

ンセシス装置“SenoClaire”）を導入いたしました。

当センター職員一同、皆様のこころとからだのバランスのとれた健康づくりのお手伝いをしたいと考えております。なお、ご予約等の健康診断のお問い合わせについては、下記の連絡先へご連絡下さい。



…健康診断に関するお問い合わせ先…

人吉医療センター予防医療センター

TEL:0966(22)7070 / FAX:0966(22)7989

Email: kenkan@hitoyoshi.jcho.go.jp

医療安全院内研修会

Team (チーム) STEPPS (ステップス) ～医療安全のためのコミュニケーションツールを身につけよう～ = 実践編 =

去る 11 月、医療安全研修会が行われました。

医療事故原因の大部分に、チームワーク不備によるコミュニケーションエラーが関係していることが分かりました。このコミュニケーションエラーを少なくするため、組織のチームワークを向上させて確実なチーム医療を行う必要性があると感じました。

患者さんの安全のためには、職種や経験年数に関係なく何でも言える・聞ける雰囲気を作ることが大切です。その中で、不安なことは不安であると躊躇せず表現する“CUS (カス)”、状況が正確に伝わるよう状況、背景、評価、提案という順番で連絡を取る“SBAR (エスバー)”などのコミュニケーションツールを用いる方法があります。

CUSやSBARを活用してコミュニケーションスキルの未熟な部分を磨き、情報を正しく伝えていきたいと思いました。

今後医療事故を防ぐためには、医療従事者がチームを意識して安心安全な医療の提供という同じ方向を向いた医療行為を行うことが必須だと考えられます。

患者さんの安全を第一に考え、職種や年代の垣根を越え、良好なチームワークに根付いた最も安全な病院を目指して、一丸となって取り組んでいきたいと思います。

6階 看護師 木淵 優子



薬剤部 実習生紹介

人吉市宝来町にあります、ひまわり薬局で薬剤師をしています齊藤裕毅と申します。1月から3月末日まで、人吉医療センター薬剤部での実習をさせていただいております。今回、人吉医療センターで実習させていただいている目的としては、調剤薬局において、なかなか触れる機会のない病態に触れることや、人吉球磨の中心である病院において、どのような医療及びケアが行われているのかに触れることで、病院薬剤師と薬局薬剤師の連携強化、在宅医療等の地域医療推進に少しでも繋げることができればと考えています。日々のカンファレンスや現場業務、研修会など参加させていただき予定です。皆様の業務の妨げにならぬよう努めますので、よろしくお願い致します。また、調剤薬局のことや、薬剤師会のこと等でしつらご質問等お答えできますので、是非ご質問、ご意見等いただければ幸いです。よろしくお願い致します。



薬剤師 齊藤 裕毅

防災訓練

今回の防災訓練を受けて、災害に対して自分たち職員がどのように考え行動するかによって、被害を最小限に抑えることが出来、また患者の命も守ることが出来るということを改めて実感させられました。また、院内で早期に災害を予防することの重要性を知るきっかけになったと思います。今回は実際に訓練を行ってみて、時間通りスムーズに自分たちの役割を

果たすことが出来、訓練自体は成功に収めることが出来ましたが、実際の災害時では今回の訓練のようにうまくいかないと思うので、日ごろから職員同士で防災訓練を行ってみることも必要なのではないかと思います。最近、国内海外問わず災害による被害をよく耳にすることがありますが、自分たち一人一人が常日頃から防災を意識する必要がありますと考えます。



臨床工学技士 内布 陽平

くま川がんサロン「琴演奏会」

1月27日(水) 3階講堂にて、くま川がんサロン「琴演奏会」が開催されました。

熊本県における琴の第一人者であられる上迫田日呂子先生と、先生の主宰する「箏弦会」のメンバーによる演奏、原 富美子さんによる歌唱、服部翔山さん(都山流尺八楽会)による尺八演奏が行われました。今回の演奏会は、「くま川がんサロン」に参加されている患者さんが、上迫田先生の琴教室に通われているというご縁により実現したものです。熊本築城400年祭の大園遊会や熊本交響楽団コンサート独奏など、数々の大舞台で演奏を重ねられた上迫田先生の音色を聴くことができる貴重な機会とあって、院内の患者さん・ご家族はもとより、院外からも多くの方にご来場いただきました。曲目も「春の海」「六段」など正月にふさわしいものをはじめ7曲も演奏され、会場全体が雅な雰囲気に包まれました。会場の皆さんでの合唱もあり、とても楽しい時間となりました。患者さんやご家族にとって、少しでも癒しになればという上迫田先生のご厚意とそれに賛同いただいた演者の皆様、がんサロン参加の方々、ご協力いただいた院内スタッフに感謝いたします。

医療福祉連携室・がん相談支援センター

ソーシャルワーカー 南 秀明

●(上迫田 日呂子 プロフィール)

「箏弦会」主宰。宮城道雄「宮城会」大師範。熊本交響楽団コンサート琴独奏、熊本城築城400年祭:「熊本城華舞台」昭和の日スペシャル(熊本城奉行丸)や第1章「花絵巻」大園遊会などでも演奏
熊本大学邦楽クラブ、その他多数の箏クラブにて指導。多くの箏奏者が師事されている。

※ 上迫田 日呂子 社中(箏弦会): 鳥井佐智子、
栃原美保・濱口洋子・大坪美佐子

●(原 富美子 プロフィール)

洗足学園大学音楽部声楽科卒業 ソプラノ 「箏弦会」などで多くの箏曲にて共演。

●(服部 翔山 プロフィール)

「都山流尺八楽会」「箏弦会」など多くの箏曲にて共演

●演目

- | | |
|--------|--------|
| 一、春の海 | 五、さくら |
| 二、草 枕 | 六、ふるさと |
| 三、六 段 | 七、飛 躍 |
| 四、荒城の月 | |



熊本大学医学部 特別臨床実習

今回人吉医療センターの産婦人科で1/27～1/29の3日間実習を受けさせていただきました。短い期間でしたが、とても充実した実習となりました。今まで大学病院では学べなかったことをたくさん経験することができました。

外来の陪席では健診の結果と比べることで卵巣腫瘍をごく初期段階で発見できた患者さんがいらっしゃいました。卵巣腫瘍は無症状で進行し発見が遅くなることが多い疾患なので、このように早期に診断できたのは、地域に密着している病院だからこそできることだと思います。また、術野に入った際には、骨盤内臓器の構造について懇切丁寧に教えていただき、縫合といった実際の手技についても指導していただきました。最終日にはお産があり、正常の経膈分娩に立ち会わせてもらいました。大学病院では帝王切開といったハイリスク群の出産がメインであり、正常分娩の立ち会いは初めてでした。正常分娩

を実際にみたことで、異常分娩の理解が深くなりました。手技、知識ともにまだまだ未熟であることを痛感し、一層



左から 祢宜田さん、木村院長、松石さん、白川さん
勉学に励もうと心から思います。

病院内ではスタッフがスタッフ同士のみならず患者さんとも笑顔で挨拶を交わしており、和気あいあいと素敵な雰囲気でした。私自身、挨拶を交わして気持ちよかったです。

また、実習後は研修医や助産師、看護師など幅広い職種の方から意義のあるお話を伺った上に御馳走にあずかり恐縮いたしました。本当に私にとって恵まれた人吉の3日間でした。心よりお礼申し上げます。

熊本大学医学部5年 祢宜田 絵美

総合診療科、五木村診療所、救急外来、訪問看護、訪問診療、小児科、緩和ケア、断煙外来、リンパ浮腫外来など、様々な分野で学ばせていただきました。先生方を始め、コメディカルの方々からも多くのことを教えていただき、地域医療を実感することができました。

今年から3週間同じ病院で実習することとなりました。長期間になったことにより、入院患者さんや訪問の患者さんの変化、救急外来にいられた患者さんの急性期以降の状態についても実際に見ることができました。これは、これまでの実習ではなかなか出来なかったことであり、とても勉強になりました。訪問看護では、患者さんの状態だけではなく、家族との関係性や在宅看護の協力体制などを把握しつつサポートをされており、看護師さんと御家族との信頼関係がとても印象的でした。

救急外来には、超重症から軽症まで、メジャーな疾患から原因のわからない患者さんまで、毎日多くの、さまざまな患者さんが受診されました。診断に至るまでの過程や処置を最初から見学させていただき、多くの画像にも触れることができ、大変勉強になりました。

また、週に1回、五木村診療所での診療に同行させていただきました。1日に20～30人の患者さんが受診され、

村民の方々にとっての診療所の重要性を感じました。血液検査の結果は当日には出ない、医療資源は超音波、X線、内視鏡と限られている条件の中で行われる診療を見させていただいたことは貴重な体験でした。問診や身体診察を丁寧にを行い、緊急性や頻度の高い疾患を鑑別に挙げてX線や超音波で診断していく。このアプローチは実践的であり、将来重要になると感じました。

実習期間中には開業されている先生や歯科の先生、薬剤師の方のお話を聞かせていただき、現在の人吉球磨地域の医療について様々な方面から知ることが出来ました。研修医の先生方には救急外来や昼食時にいろいろなお話を聞かせていただき、毎日とても楽しく実習をさせていただきました。研修病院を選ぶ際のポイントは自分が将来やりたいことをイメージする上でとても重要な点でした。また、総務課の方々にもたくさんお気遣いをいただき、最後まで気持ちよく実習をさせていただきました。木村院長、田浦先生はじめ、人吉医療センタースタッフの皆様に、心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

熊本大学医学部医学科5年 白川 真実

消化器外科の方で実習させていただきました。当初5日間の予定が大雪で行くことができず4日間となりました。残念でしたが、それでも十分に経験させていただきました。外科の手術に入らせていただき、丁寧に指導してもらいました。また救急外来の方でも実習でき、非常によい経験となりました。

人吉医療センターでは消化器のみならず、様々な手術を行っていることが最も印象的で、大学病院との大きな違いなのだと知りました。大学ではなかなか見ることのできなかった手術や消化器以外の下肢静脈瘤のストリッピングや甲状腺癌摘出などいろいろな症例に当たらせていただきました。手術や回診、診療のみならず、論

文の勉強会などもあり、日々新しい知識を更新していく場も設けてあることで、より良い医療を提供しようとしていることが素晴らしいと感じました。また救急外来においても外科が入院を請け負うことも多く、やはり重要性が高いということを感じました。先生方には熱心かつ親切に接していただき、あっという間に実習期間が過ぎてしまいました。院内実習で外科に興味を持っていたのですが、この一週間でさらに興味を抱きました。

木村院長、外科の先生方をはじめとして、人吉医療センターのスタッフの皆様には大変よくしていただき、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

熊本大学医学部医学科5年 松石 梢

緩和ケア病棟 節分

2月3日は節分。

8階緩和ケア病棟ではすっかり恒例になりました豆まきを行いました。

いつも緩和リハビリでお世話になっているPTの塚島さんが赤鬼に分して病室に現れると患者のみなさんはく鬼は外>と升に入れた豆を力一杯投げつけて邪気を払いました。中には豆は投げずに看護師の手のひらにのせてくださる方もおいでになり、ほほえましい場面もありました。皆様におかれましても今年1年、福が舞込む良い年になりますように。



天使の知恵袋

1月20日(水)に相良村保健センターふれあいセンターを会場に天使の知恵袋(小児科 出前講座)を実施しました。

前日に降った雪の影響もあり、参加人数が少し減りましたが、終始アットホームな感じで実施しました。今回は、子育て中の親を対象に当院小児科の谷口先生より発熱、感染症等のこの時期に多い病気やその対処法について講演を行いました。参加者の皆さん真剣に聞かれ、講演後にはご意見もありました。今回の出前講座を通して、お子さんの急変時の対応等について理解して頂き、親御さんが抱える不安の軽減に少しでも繋がればと考えます。

医療福祉連携室 田頭 隼人



2月のフレッシュマンセミナー報告

- 2/4 藤吉 玲奈 「ZONEについて」
- 2/18 郡 桃伽 「RSウイルスについて」
- 2/25 小崎 麗子 「おぎゃー献金について」

2月の勉強会報告

2月3日(水)中外製薬医療WEBセミナー

「平成28年度診療報酬改定について
～急性期医療を中心として～」

JCHO 東京山手メディカルセンター 院長
万代 恭嗣先生

2月5日(金)第11回 Cancer Net 研究会

「私のカルテ」の現状と今後について

人吉医療センター がん相談支援センター
南 秀明MSW

「乳癌の最近の進歩」

熊本大学大学院 乳腺・内分泌外科学分野 准教授
山本 豊先生

2月10日(水)人吉・球磨 婦人科セミナー

「女性を悩ます protean disease:

子宮内膜症(エンドメトリオーシス)」

熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学 教授
片淵 秀隆先生

2月16日(火)臨床に役立つ漢方セミナー

－漢方薬のEvidenceから考える－

「明日から使える！即戦力漢方5処方！」

山口大学医学部附属病院 漢方診療部 診療教授
飯塚 徳男先生

2月25日 第79回 乳腺カンファレンス

「トモシンセシスについて」

人吉医療センター 画像診断センター

甲 亜由美 放射線技師

「超音波で指摘されず、MRIで指摘された乳癌治療の症例」

人吉医療センター 外科 西村 卓祐先生

// 臨床検査部 阪本 裕子 臨床検査技師

新 任 紹 介



かたやま ゆりえ
片山 友里恵 (外来・看護師)

最終卒業校：久留米大学医学部附属看護専門学校

趣味：駅伝鑑賞

好きな言葉：ぼちぼち

自分の性格：ネコみtainな性格

自分のコマーシャル：よろしくお願い致します



ひらやま まい
平山 舞 (クラーク)

最終卒業校：熊本県立球磨商業高等学校

好きな言葉：「みんなちがって、みんないい」「十人十色」

自分の性格：負けず嫌い

自分のコマーシャル：一生懸命頑張りますので、よろしくお願い致します。迷っていたら、助けて下さい。